



從四位勲三等永田秀次郎
東京府東京市長就任ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十二年五月二十九日

内閣總理大臣男爵加藤友三郎



内

閣



裏面白紙

内 第七六八號

起 三年五月廿九日

裁可 年月日 施行

三年五月廿九日

内閣總理大臣 了

内閣書記官長

勅

内閣書記官



東京府東京市長後任候補者中從四位勲三等永
田秀次郎市長就任ノ件上裁ヲ經テ左通指令機成ルニ
指令案

東京府東京市長後任候補者中從四位勲三等
永田秀次郎市長就任ノ件裁可ヲ經タリ

内閣

市長就任御裁可、件

從四位勲三等永田秀次郎

桐島像一

正五位勲二等加藤正義

右、東京府東京市長從二位

勲一等子爵後藤新平大正十

二年四月廿七日辭任、付其

後任候補者トシテ推薦候處

從四位勲三等永田秀次郎最

内務省

適任ト被存候ニ付

御裁可被為在度別紙市會議

長推薦書寫相添へ

右謹テ奏ス

大正十二年五月廿九日

内務大臣水野鍊太郎



市長候補者當選之義上申

東京市長子爵後藤新平辭任ニ付市長候補者三人推薦スキ旨御命令ニ從ヒ本日選舉會相開候處左記ノ適當選候補條此段上申候也

大正十二年五月二十五日

東京市會議長伯爵柳澤保惠印

内務大臣水野鍊太郎殿

第一回選舉

得票五拾壹票

永田秀次郎

第二回選舉

内務省

議決ヲ以テ議長指名推選

桐島像一

第三回選舉

議決ヲ以テ議長指名推選

加藤正義

履歷書

長

本籍 兵庫縣三原郡倭文村ノ内田村二五
現住所 東京市小石川區雅司ヶ谷町八三
族籍 兵庫縣士族

永田秀次郎

明治九年七月廿三日生

學歴及任免賞罰事故

一明治廿五年三月廿日 兵庫縣尋常中學校卒業
一同 廿五年七月 第三高等學校法學部卒業
一同 廿五年三月 判檢事第一回登用試験ニ及第
一同 廿五年三月 司法官試補檢事代理トシテ四日市
區裁判所詰ヲ命メ
年俸三百圓下賜
司法省

内務省

一明治廿二年十月廿日 依願司法官試補ヲ免セラル

一同 廿二年三月廿日 辯護士試験ニ及第

一同 廿三年十月廿日 文官高等試験ニ及第

一同 廿五年十月十日 任兵庫縣立洲本中學校長

月俸八拾參圓給與

兵庫縣

一同 廿六年一月七日 任兵庫縣立洲本中學校長

内閣

年俸金千圓下賜

一同 廿七年九月六日 任大分縣視學官

敘高等官七等

同

四級俸下賜(年俸千圓)

文部省

一同 廿八年四月十九日 敘從七位

宮内省

一同 廿八年四月十九日 勅令第四百十號ニ依リ廢官

一同 日 任大分縣事務官

敘高等官七等		內閣
六級俸下賜		內務省
補第二部長		
一	同 廿九年四月一日	敘勲六等授瑞寶章賜金百八拾圓
	(廿七八年事件、功、依此)	賞勲局
一	同 年七月二日	五級俸下賜(年俸千貳百圓)
	內務省	
一	同 年七月廿日	補第四部長
	內閣	
一	同 年九月廿日	陞敘高等官六等
	內閣	
一	同 年十月廿日	敘正七位
	宮內省	
一	同 卅年七月十日	地方官官制中改正(部長消滅)
一	同 日	補警察部長
	內務省	
一	同 年十月八日	任石川縣事務官
	內閣	
敘高等官六等		同
內務省		
一 明治卅四年十月八日		
四級俸下賜(年俸千四百圓)		內務省
補警察部長		同
一	同 卅年十月九日	任熊本縣事務官
	內閣	
敘高等官五等		同
四級俸下賜		內務省
補警察部長		同
一	同 年十月廿日	敘從六位
	宮內省	
一	同 卅年十月廿日	三級俸下賜
	內務省	
一	同 卅年四月一日	俸給令改正
一	同 年十月十日	任巖手縣事務官
	內閣	
敘高等官五等		同
三級俸下賜		內務省
補內務部長		同

一同	年十月十八日	府縣制第六十五條第三項ニ依リ岩手縣參事會員ヲ命ス	同
一同	日	土地收用法第三十八條第二項ニ依リ岩手縣收用審查會委員ヲ命ス	同
一同	年十月廿日	株式會社岩手縣農工銀行監理官ヲ命ス	大藏省
一同	年十月廿日	地方森林會規則第三條第二項第一号ニ依リ岩手縣地方森林會議員ヲ命ス	農商務省
一同	年十二月廿六日	陸叙高等官四等	内閣
一同	同四年三月十日	叙正大位	宮内省
一同	年六月廿八日	叙勲五等授瑞宝章	賞勲局
一同	年十月廿一日	二級俸下賜	内務省
一同	年十月十九日	市制第七十條第二項ニ依リ岩手縣市吏員懲戒審查會委員ヲ命ス	内務省
一同	日	町村制第一百五十條第二項ニ依リ岩手縣町村吏員懲戒審查會委員ヲ命ス	同
一同	明治四十五年三月六日	任内務書記官叙高等官四等	内閣
		三級俸下賜	内務省
一同	年三月廿日	岩手縣收用審查會委員ヲ免ス	同
一同	年四月十五日	警保局警務課長ヲ命ス	同
一同	年四月廿日	岩手縣公張ヲ命ス	同
一同	年五月十五日	国有土地下度審查員ヲ命ス	同
一同	大正元年十月	二級俸下賜職務格別勉勵金百五十兩賞典	同
一同	同年十月日	任福岡縣事務官叙高等官四等	内閣
		一級俸下賜補内務部長	内務省
一同	二年一月七日	府縣制第六十五條第三項ニ依リ福	

同 二年一月廿日 岡縣參事會員ヲ命ス 同	同 二年一月廿日 市制第百七十條ニ依リ福岡縣市吏員懲戒審査會員ヲ命ス 同	同 日 町村制第百五十條第二項ニ依リ福岡縣町村吏員懲戒審査會員ヲ命ス 同	同 年一月廿日 株式會社福岡縣農工銀行監理官ヲ命ス 大藏省	同 年有十月 官制改正廢官 同 閣	同 日 任福岡縣內務部長 同 閣	同 叙高等官四等 同 閣	一級俸下賜 同 閣	同 年有六月 府縣制第六十五條第三項ニ依リ福岡縣參事會員ヲ命ス 同	同 年有四月 土地收用法第三十八條第三項ニ依リ福岡縣收用審査會委員ヲ命ス 內務省	大正二年七月三日 地方森林會規則第三條第三項第一號ニ依リ福岡地方森林會議員ヲ命ス 農商務省	同 年七月五日 株式會社福岡縣農工銀行監理官ヲ命ス 大藏省	同 年七月八日 市制第百七十條第二項ニ依リ福岡縣町村吏員懲戒審査會員ヲ命ス 內務省	同 日 町村制第百五十條第二項ニ依リ福岡縣町村吏員懲戒審査會員ヲ命ス 同	同 年七月廿日 陞叙高等官三等 同 閣	同 年九月廿日 叙從五位 同 閣	同 年十月五日 任京都府警察部長 同 閣
----------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------	-------------------	------------------	--------------	-----------	-----------------------------------	--	---	-------------------------------	---	--------------------------------------	---------------------	------------------	----------------------

叙高等官三等

同

一級俸下賜

内務省

同 年十月廿日福岡縣收用審査會委員ヲ免ス 同

同 年十月廿日府縣制第六十五條第三項ニ依リ京

都府參事會員ヲ命ス

同

同 年十月廿日大禮使事務官被仰付

内閣

長官官房勤務ヲ命ス

大禮使

同 三年四月十日大禮使官制廢止ニ付大禮使事務官廢官

同 四年四月十日大禮使事務官被仰付

内閣

長官官房勤務ヲ命ス

大禮使

同 年十月十日大禮記念章授與

同 五年一月九日叙勲四等授旭日小綬章

賞勲局

同 大禮使事務勳勵ニ付千四百圓ヲ賜フ 内閣

内務省

大正五年一月廿日大禮使官制廢止

同 年四月廿日任三重縣知事

内閣

叙高等二等

同

三級俸下賜

内務省

同 年五月廿日叙正五位

内閣

同 年十月十日任内務省警保局長

内閣

叙高等官二等

同

同 年十月廿日京都三重福岡佐賀長崎各府縣

出張ヲ命ス

内務省

同 年十月廿日衆議院議員選舉法改正調查會

委員被仰付

内閣

同 年十月廿日明治神宮造營局評議員被仰付

同 年十月七日長崎愛知佐賀福岡四縣下出張ヲ命ス 内務省

一同 年十月七日 京都府靜岡縣三重縣奈良縣(各)

張ヲ命ス

内務省

一同 年十月五日 内務省所管事務政府委員被仰付

内閣

一同 年十月五日 聯合國經濟會議決實施委員

被仰付

一同 年十月二日 行幸行啓中葉山臨機出張ヲ命ス

内務省

一同 年十月二日 内務省所管事務政府委員被仰付

内閣

一同 年十月二日 日光臨機出張ヲ命ス

内務省

一同 年十月二日 京都府愛知縣滋賀縣(出張)

命ス

同

一同 年十月二日 内務省所管事務政府委員被仰付

内閣

一同 年十月二日 職務格別勉勵ニ付金四百五十円給與

内務省

一同 年十月二日 神奈川縣(出張)ヲ命ス

同

内務省

大正七年二月八日 葉山行幸行啓中臨機葉山(

出張)ヲ命ス

内務省

一同 年三月五日 靜岡縣(出張)ヲ命ス

一同 年三月五日 救濟事業調査會委員被仰付

内閣

一同 年三月五日 都市計畫調査會委員被仰付

同

一同 年三月五日 依願免本官

同

一同 年三月五日 滿洲年在官ニ付金貳千五百十八圓

參拾參錢給與

内務省

一同 年九月五日 貴族院令第一條第四項ニ依リ貴

族院議員ニ任ス

貴族院

一同 年九月五日 叙從四位(特旨)

宮内省

一同 年九月五日 明治神宮造營局評議委員被免

内閣

一同 九年十月一日 大正四年及至九年事件ノ功ニ依リ勲

三等瑞寶章及金千八百圓ヲ授ケ賜フ賞勲焉

一大正九年十月二十日 東京市助役就職

年俸一万五千圓給與 東京市役所

一大正九年十月二十日 市吏員試験委員長ヲ命ス 同

一同 日市史編纂委員長ヲ命ス 同

一同 日市區計畫調査會委員長ヲ命ス 同

一同 日臨時國勢調査部長ヲ命ス 同

一同 十年五月二十日 監査課長事務取扱ヲ命ス 同

一同 年六月二日 審査會委員長ヲ命ス 同

一同 年九月十九日 東京市教員講習所長ヲ命ス 同

一同 年十月三日 社會事業調査會臨時委員被仰付内閣

一同 年十月二十日 英國皇太子殿下奉迎準備事務委員長ヲ命ス 東京市役所

内務省

一大正十年十月十日 非常災害事務總務部長ヲ命ス 東京市役所

一同 十年八月八日 本市市民讀本應募券原稿審查委員ヲ命ス 同

一同 年三月十日 英國皇太子殿下奉迎事務委員長ヲ命ス 同

一同 年十二月十日 東京市歌並童謡審查委員ヲ命ス 同

履歷書

本籍東京市小石川區原町百三番地平民
現住所東京市小石川區原町百三番地

桐島 像 一

元治元年十月五日生

一明治二十二年六月東京帝國大學法科選科ヲ卒業
シ三菱會社入り三菱銀行副長、地所部長、專
務理事、監事等ヲ勤メ大正八年十二月退社ス
二大正八年十月東山農事株式會社專務取締役ニ就
任シ現今ニ至ル

一、大正七年六月五日東京市會議員當選
二、大正九年十二月七日東京市會議長當選

內務省

履歷書

本籍 鳥取縣日野郡日野村字奥別所九百五番地平民
現住所 東京市麹町區元園町一丁目二番地

加藤 正義

安政元年二月二十三日生

一明治十八年六月六日任農務權少書記官

一同年十月一日日本郵船會社支配人ニ選任セラレ

一同年四月廿三日官選ヲ以テ日本郵船會社理事ニ就任ス

一同年十二月一日日本郵船會社取締役ニ就任ス

一同年十二月十五日日本郵船會社副社長ニ選任セラレ

一同年十二月廿五日明治二十七八年戰役ノ功ニヨリ勲四等

瑞寶章及金四百圓ヲ授ケ賜フ

一同年九月十七日法典調查會委員被仰付

内務省

一明治廿六年三月十日法典調查會委員被免

一同年六月十八日東京市ニ於テ東京築港調查會

協議委員ニ推選セラレ

一同年八月

湖南汽船株式會社ヲ創立シ推サレ

テ取締役會長ニ就任ス

一同年三月三日明治三十三年清國事變ニ於ケル功依

リ勲三等瑞寶章ヲ授ケ賜フ

一同年十月六日東京商業會議所特別議員ニ選任セラレ

一同年八月十日司法省破産管財人ヲ命セラレ

一同年四月一日明治三十七八年事件ノ功ニ依リ勲

二等瑞寶章ヲ授ケ賜フ

一同年四月六日東京商業會議所特別議員改

選ニ付キ再選セラレ

一同 四十二年八月十二日司法省破産管財人ヲ命セラル

一同 年九月十六日東洋拓殖株式會社設立委員被仰付

一同 四十四年四月一日東京商業會議所特別議負改

選ニ付再選セラル

大正三年六月六日東京市會議負ニ當選ス

一同 四年十月十日敘正五位

一同 年十月十三日日本郵船會社取締役ヲ辭任シ

爾來相談役ニ就任ス

一同 六年六月六日帝國水難救濟會理事ニ就任ス

一同 年十月十二日扶桑海上保險株式會社取締役會

長ニ就任ス

一同 七年二月十八日維新史料編纂會委員被仰付

一同 年六月六日東京市會議負第二回當選

内務省

一同 七年十月十一日東京市會議長當選就任ス

文書
長
了

内務省 東地 第一九五號

別紙市長就任御裁可、件上
奏書進達人

大正十二年五月廿九日

内務大臣水野鍊太郎



内閣總理大臣男爵加藤友三郎殿

内務省